

なおもと

ん！もっとしりたひ

××××★×××× ①7

日本の伝統芸術に親しまれた三代さまのお話に、いつか自分も着物を着て、お茶のお運びをしてみたいなあ、そんな憧れを抱くモンちゃんでした。さて、今回からはまた別の方の話題に。また一つ賢くなりますね、モンちゃん！



モンちゃん

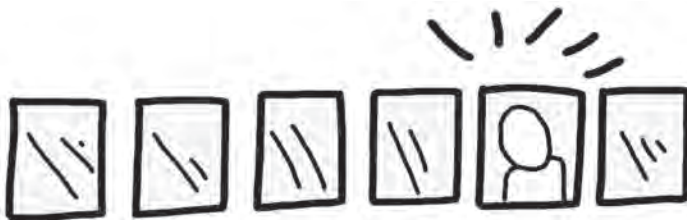


おじいちゃん



おじい 三代さまのお話はもう終わりのの？
 おじい そうじゃな。次は、三代さまとつても関係の深い方についてじゃ。
 モン 三代さまと深い関係…？ これまでみんなそうなんだけどなあ。
 おじい 確かにそうじゃな（笑）。これまで、三代さまにとつてのおばあちゃんや、ご両親といつ

おじい さて、おおもとじけん 三代さまのげいじゅつかうどう 芸術活動について、いろいろと話し
 たんじゃが、ここ ここでまた、ちが 違う方の話に移ろうかの
 。



ほほお、
あちらの方である

たご家族だつたんじやが、
今度は遠方から綾部を訪
ねてきた、ある青年の話
じや。

モン ふむふむ。

おじい その方の名前は
高見元男。後に、三代さ
まご夫婦になられる方
じやよ。

モン あっ！ もしかし
てお写真の三代さまの横
の方？ 尊師さまって呼
んでる方だよな？

おじい そうじやそう
じや。尊師さまは岡山県
倉敷市というところにお
生まれになった。

実はな、尊師さまのご
誕生について、とても不
思議なエピソードがある
んじや。

モン へえ、どんな？

おじい これは尊師さま
が二十六歳のころ、「夢の
なかでみた」と題して、

日記に記されたものじや。
ちよつと長くなるが、読
んでみるぞ。

「生まれおちると、すぐ
私は、すっ裸のまま、や
わらかいゴムのような袋
の中に入れられました。
父親はそれを引きさげて、
母親と二人で、あちこち
と岩の間を歩きながら、
『この辺がよからう』『い
や、それはあんまりです
わ。もう少し向こうの穴
から……』などと、しき
りに、下界へおとす、格
好の穴を探しているらし
かった。

ゴムは透明でしたから、
父親が『この辺がよから
う』などと言いながら、
ソツと私をさかさまにし
てその穴の口へあてがう
たびに、その下界の様
はおぼろげながら知るこ
とができました。なんだ

か、灰色がかった、胸ク
ソの悪い世界なので私は、
いくたびとなく『いやだ、
いやだ』と大声でダダを
こねましたが、そのたび
ごとに母親は、オロオロ
声で、『ネエ坊や、もう百
年したら、また会えるん
だから、ちよつとの間や
から、下界で修行して来
るんですよ』とおなじこ
とばかり、繰り返えし繰
りかえし申しました」

モン ちよつと待って！
赤ちゃんをどこかへ落と
しちゃうの？ だめだよ。

おじい 違う違う。下界
とは、わしらがおるこの
世界のことじや。下界へ
落とすということは、こ
の世へ生まれてくるとい
うことじやな。

モン じゃあ、生まれる
前の出来事ってこと？
なんだか、すごいね。早

く続き聞かせて！

おじい あ、はいはい。
えつと、どこまで読ん
だかの。



教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待ってまーす！！
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのお」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

なおもと

ん！もっとしりたひ

××××★×××× 39

尊師さまの夢のお話はとても不思議なものです。モンちゃんもワクワクして早く続きが聞きたくてたまりません。おじいちゃんはモンちゃんの真剣な表情に、つい、話に熱が入ってしまいます。



モンちゃん



おじいちゃん



尊師さまつて
どんな方？

おじい さてさて、続き
を讀むぞ。

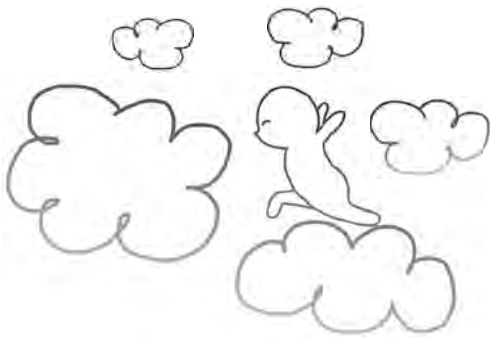
「父親はなんにも言わず
に、ノソノソと私を落と
すべく穴をさがし歩きま
した。いよいよこの穴か
ら落とされるんだな、と
覚悟した時には、なんだ
か途方にくれたような気
分がしましたが、しかし
また一方、

——— いったい、自分は
どんな世界へおちるだろ
うか———

と、すくなからず好奇
心も手つだって、早くフ
ワリフワリと飛んで行き
たいと思いはじめました。
『それでは、百年後のきよ

う、またここで会おう』
父親はしっかりした声
でこう言って、私を手ば
なしました。

五色の雲の間を縫うよ
うに走って、『面白い、お
もしろい』と思っている間
に、たちまちピチャんと、
まっ黒い粘土の上に、小
便のような水が申しわけ
ほどにたまっていて、は
ば三尺ほどの狭いドブの
中へ、頭をつっ込んでい
るのでした」



モン ふ〜ん、なるほどお
……どういふこと？

おじい ははははは。そう
じゃなあ、いいいよ、下界
のお母さんのおなかの中
に入ったということじゃ
ろうかの。

モン 確かに、おなかの
中は狭いもんね。すごく
不思議で面白いね。

このお話の中で、下界で
修行してゐるんですよっ
て、お母さんが言ってた
けど、この世界は修行を
するところなの？

おじい おお〜、モンちゃ
ん鋭いのお。そうじゃよ。
人間は皆、修行をするた
めにこの世に生まれてく
るんじや。

モン どんな修行？ お
じいちゃんは今もう終わっ
たの？ 私はこれからど
んな修行をするの？

おじい この世での修行
は、人それぞれ違うん
じや。また修行といつて

も、どこか険しい山に行っ
て体を鍛えたり、滝に打
たれたりということでは
なくて、普段の生活を
送る中で、いろいろな体験
をしたり、試練を乗り越
えたりすることで、人と
して成長することをいう
んじや。

モン ふむふむ。
おじい 例えば、モンちゃ
んがお友達とけんかした
としよう。そして、あの
子が悪い！と、モンちゃ
んは謝らない。でもその
うち、もしかしたら、私
の言い方も良くなかった
のかも〃と反省し、勇気
を出して〃ごめんね〃と
言い仲直りできた。

モン ごめんねって言え
たときって、すげううれし
いし、前よりも仲良しに
なれた気がするんだよね。

おじい そうじゃろう。そ
のうれしさを体験すると、
次また同じようなことが
あっても、私だけが正し
いわけじゃない〃と素直に
自分を見つめ直せる。そ
ういったことを繰り返す
ことで、心も大きく成長
するんじやよ。

モン そうなの！ じゃ
あ、私も一緒に頑張るっ！

心の成長が大切……
大きくなれ、大きくなれ



皆さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待ってまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのお」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

おおもと

ん！もっとしりたい

××××★×××× 39

尊師さまの不思議な夢の話の中で、人はこの世で修行をするために生まれてきたということを知ったモンちゃん。また一つ大切なことを学び、`まだまだ修行中、`というおじいちゃんの言葉に、`私も頑張る！`と意気込むのでした。



モンちゃん



おじいちゃん



尊師さまって
どんな方？

おじい 尊師さまの不思議な夢の話、面白かったかの？

モン うん、とっても！

おじい さて、尊師さまのご幼少期についてじゃが、生まれたときから、実に美しい子だと評判だったそうじゃ。一方、体は丈夫ではなく、果たして健康に育つだろうかと心配もされておったようじゃな。

モン 美しい赤ちゃんか。見てみたいなあ。でも、体が弱いのは心配だね。

おじい そうじゃなあ。また子供のころの生活は、決して明るく楽しいもの

ではなかったと記してある。

モン え！ そうなの？

おじい 家庭環境がいろいろと複雑でのもとは仁科清吉さま、ひでのさまの元にお生まれになったんじゃが、家の都合で、生後一カ月ほどで親戚に当たる高見家に養子に入られた。しかし、小学生のころには養母であるせいさまが亡くなり、数年後には祖父と慕った和平治さまが亡くなって、相当な寂しさを感じられたことじゃろう。

モン 本当だね。そんなつらい思いをするなんて、かわいそうだな…。

おじい そして、靈感も強く、そのこともご幼少の尊師さまを深く悩ませた。

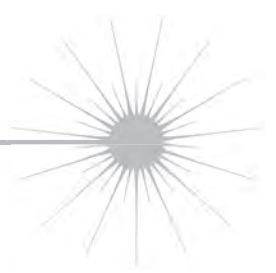
モン 靈感？



おじい 何と言ったらい
いかの、普通の人に見
えないものが見える。こ
の世の者ではない人の姿
が見えてしまうと言え
ば分かるかの？
モン ま、まさか幽霊と
か？
おじい まあ、そんなと
ころじゃ。そうした現象
により、精神的にも肉
体的にもつらい状態だ
ったそうじゃが、もつた
めだと、参ってしまうよ
うな

状況になっても、いつも
どこからともなく、一筋
の光が差して、尊師さま
を助けてくれたそうじゃ
よ。
モン え、その光は何だっ
たの？
おじい ああ、そのピカッと光
るものはなんだらう？
あの光は、いつたいどこ
から来るんだらう？ そ
して、俺といったいどん
な関係があるんだらう？
と、その時の尊師さまに
も分からなかったそう
じゃ。
モン いつもピンチを
救ってくれる光なのね。
ヒーロー みたい！
おじい 本当じゃの
(笑)。
その後、尊師さまは、
そうした心霊現象や人生
についてなど、さまざま
な悩みや疑問を抱えつつ、

高校生になられた。そし
てあるとき、親友の一人
から、大本のことを聞か
された。尊師さま二十二
歳の時じゃ。
モン 京都から遠いところ
に住んでいたのに、大
本のことを知っていたん
だね。
おじい この時は大正八
年。当時の大本は、聖師

A simple line drawing of a girl with a large flame on top of her head, smiling and looking towards the viewer.

教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待ってまーす!!
〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのお」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

さまを中心全国的に活
発な宣教活動が行われて
いたんじゃ。尊師さまが
通われていた学校でも、
多くの生徒が関心を寄せ、
入信した者もいた。
モン それで、尊師さま
も大本に行かれたの？
おじい そう。その年の
三月、いよいよ綾部へと
出発されたんじゃ。

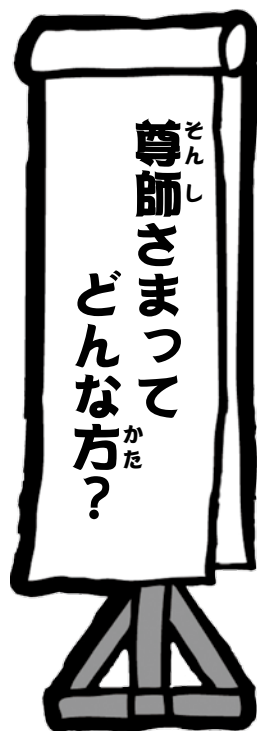
綾部に向かわれた尊師さま。その後が気になるモンちゃんでしたが、話を聞き進めるうち、尊師さまが大本と出合ったことで大きな喜びを得られたことを知り、モンちゃんも少しうれしくなりました。



モンちゃん



おじいちゃん



モン 尊師さまは綾部に行って、どうだったんだろうね。
おじい 神苑に着いたそのときから、気分はすっかり変わってしまったわ。そうじゃよ。受付に座っておられた聖師さまに会い、神苑を案内されてご神前に座ったとき、「しらずしらずに涙がこみあげ、とめることもできず、ただただ頬にあふれさせ、いいようのないありがたさに打ちふるえた」と後にノートに記されておる。
モン 着いてすぐに、素晴らしいところだって分かったんだ。

おじい そうじゃな。この参拜によって、これまで悩んでいたこと、疑問に思っていたことは全て解消し、尊師さまの心は喜びに満たされた。そして、小さいころから危ないところでもいつも救ってくれたあの一筋の光の源は、綾部だったことも悟られたんじゃ。
モン わあり、そうだったんだ！ ずーっと神さまが助けてくれてたんだね。
おじい そういうことじゃな。その後、九月には京都の大学に進学され、住まいも京都市内に移されたんじゃが、もっぱら綾部の神苑に出入りされ、献勞に励まれたようじゃ。
モン 献勞って？
おじい 神さまのために働くことじゃ。そのころ、

神苑もまだ整備の途中
で、木を切ったり、道を
整えたりといろいろな作
業があって、尊師さまも
奉仕者と共に汗を流され
た。

モン 学校は大丈夫だっ
たのかなあ。

おじい そんなことは一
向に気にされないご様子
だったようじゃ(笑)。同
じように、亀岡でも大勢
に混ざってご奉仕された
ようじゃしな。

モン それほど、大本の
ことが大好きになったん
だね。

おじい そうじゃなあ。
ご幼少のころはあまり健
康体ではなかった尊師さ
まが、かなりの力仕事も
こなされたそうじゃから、
生き生きと作業に取り組
まれていたんじゃろう
なあ。

そのうち、京都から綾
部の神苑近くに引越
され、献労や大本の出版
物の編集作業も手伝わ
れるようになったとのこと
じゃ。

モン まます大本に夢
中だね。

おじい そのころ、大本
の活動自体が、さらに活
発化していったからの。
しかし、それが原因で：
ほら、前に話したことが
あるじゃろう、事件につ
いて。

モン ああ、大本事件だっ
たっけ？

おじい そうじゃ。尊師
さまも、そのご苦労を味
わっておられたわけじゃ。
そういった状況の中、
二十六歳で大学を中退、
翌年、正式に大本で働か
れることになったんじゃ。
モン あらま、学校やめ

ちゃったんだ。でも、大
本で働けるようになって
良かったね。

おじい 修行・参拝者の
受付や、神苑案内など

が主なお仕事だったよう
じゃ。それから、ご自身
で決められた日課として、
宿舍のトイレ掃除があつ
たそうじゃよ。前夜にと
んなに遅くまで仕事をし
ても、真冬の寒さ厳しい
日でも、早朝から取り掛
かり、欠かされることは
なかった。また、近くの
産土神社の境内の清掃も
同様にじゃ。

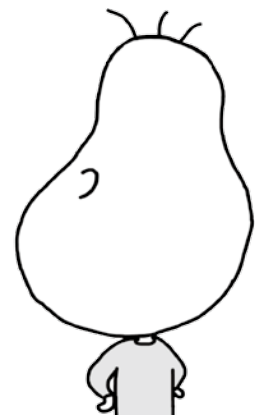
モン へえ、すごいね。

面倒だったたり、寒くて嫌
になったりすることでも、
ずっと続けるなんて！

おじい わしらも見習わ
せていただかんなあ。

モン そ、そうだね…。

モンちゃんも、早起きがんばら
ないかね！



んっ…



教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待ってまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのお」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

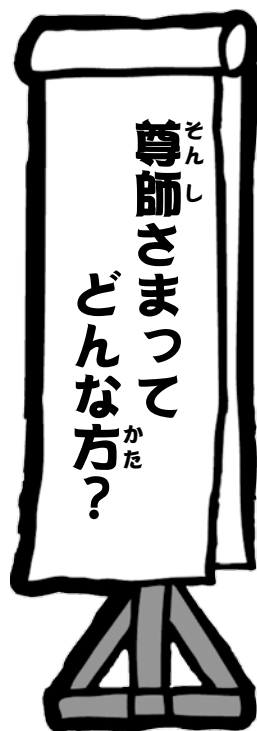
朝早くからトイレ掃除や産土神社の清掃に励まれた尊師さまに感心しきりのモンちゃん。まずは早起きから頑張れるかな？ さて今回は、尊師さまのお人柄をより詳しく知ることができるエピソードを聞かせてくれます。



モンちゃん



おじいちゃん



おじい さて、大本で働かれるようになり、どんな大変なことも、率先して取り組まれた尊師さまじゃが、実は、子供たちにも大人気だったそうじゃよ。
モンへえ、そうなんだ。優しいお兄ちゃんって感じだったのかなあ。
おじい 神苑に遊びに来る近所の子供たちや、奉仕に来ていた少年たちにたびたび自分で作られた童話や物語を聞かせたり、暇があれば鬼ごっこや相撲をしたりして過ごされたそうじゃ。
モン え、いいなあ。

面白そう♪
おじい 子供たちと遊ばれる尊師さまは本当に楽しそうだったというこ
とじゃ。その少年たちの一人が、後に大本の機関誌に寄せた文章には次のように書いてある。
「…十五歳の春、綾部の天声社に奉仕に来て驚きました。あの面白い、好



いいなあ、モンちゃんも入れて♪



きな兄さんが編集室にいたのです。このころから兄さんをオジサンと呼びかえました。オジサンの存在で、すこしも悲観せずすみました。

そのころ、オジサンは子供たちに大人気で、私達の病気には必ずオジサンのお取次ぎをお願いしたものです。私達は、オジサンのお取次ぎはけつたいな仕方やけど、とても良う効くな」と感心しあったものです。(中略)そしてオジサンはいつも私達が食べ物をねたると、すぐ三代さまのところからもらってきて私達に分けてくれました」

モン 子供たちにとって、優しく、いるだけでホッとするような頼りになる存在だったのね。

おじい 尊師さまがいかに子供たちに慕われていたかが、よく分かるエピソードじゃろう。

モン お菓子も持ってきてくれるしね、三代さまのところからだけど(笑)。

三代さまとも仲良しだったのね。

おじい それについてじゃが、尊師さまが三代さまに会われたのは、三代さまの妹・一二三さまがきつかけだったようじゃ。

モン へ、そうなんだね。

おじい 一二三さまは病弱なお体でお部屋でよく休まれていたそうじゃ。それを見舞う若者たちの中に、尊師さまもおられたようじゃ。そしてあるとき、「高見さんて、面白い人やなア。こんど見舞いに見えたとき、いっぺ

ん言うたげるさかい、遊びにきなよ」と三代さまを誘われたんじゃ。

モン 尊師さまって子供にも大人気だし、優しい人だから、三代さまともすぐに仲良くなれただろうね。

おじい 実は、三代さまはそれまで尊師さまのことを、ちよつと変わった人」と思われていたようじゃ。

モン え、そうなの！

おじい 着るものなどにも頓着ないというか、あまり細かいことを気にするようなお方ではなかったから、周りの人の目には、少し風変わり映っていたのじゃろう。しかし、実際に一二三さまの部屋で尊師さまに会われた三代さまは、それまで持っていた印象ががらつ

と変わり、常識のある、気持ちの温かい人の感じを抱かれたそうじゃ。

モン そっか。やっぱり尊師さまは、心が温かい人なんだね。

おじい それからは三代さまのお部屋にも頻繁に遊びに行かれるようになったとのことじゃ。



教主さまたちについて分からないこと、疑問に思ったことは、どんどんお手紙で送ってね。待ってまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのお」編集室
「もつとしりたい おおもと」係

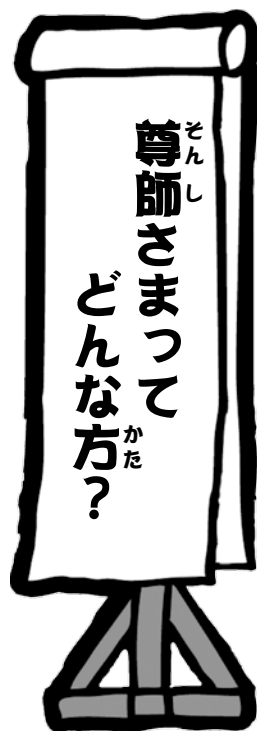
心温かい、お優しい尊師さま。聞いているモンちゃんも、どこか気持ちがほっこりとしてきました。そして三代さまも、そのお人柄に尊敬の念さえ抱かれ、やがてお二人は…。



モンちゃん



おじいちゃん



モン 尊師さまと三代さま、仲良くなれて良かったね。

おじい そうじゃな。そのうち、二代さまに頼まれて国文学や東洋史とあった、ちよつと難しい勉強も教えられるようになったそうじゃ。

モン うーん、さすがだなあ。

おじい 勉強が終わった後には、お二人で子供たちと遊ばれることも多かったようじゃよ。

モン そうなんだ。毎日、にぎやかだったんだね。

おじい そうしたお付き合いを重ねるうち、三代

さまの尊師さまに對する印象は、さらに変わっていかれた。

「つきあっているうちに私の感心させられたことは、こまやかな神経をもつた、人の気持ちのわかる方であることに気づいたのであります。(中略)」

超然とした態度の中に、礼儀正しい人柄が感ぜられ、それが、あたたかい心づかいからであり、そこに信頼すべき高潔なものを感じ、しだいに私の心は尊敬の念いをよせるようになつたのです」

モン 三代さまは、尊師さまのことが大好きになつたんだね。

おじい そうじゃな。聖師さま、二代さまもとてもお喜びで、お二人の縁談を進められたんじゃ。

モン 縁談？

おじい ご結婚のこと
じゃ。

モン そうなの！ 良
かったね。

おじい 今から九十年以
上前になるが、昭和三年
二月一日、お二人の結婚
式が挙げられた。全国か
ら大勢の信徒が集まり、
聖師さま、二代さまはも
ちろん皆が大きな喜びに
包まれたんじゃ。

モン たくさんの人が喜
んでくれて、いっぱいお
祝いしてくれるなんて、
幸せだね。

おじい そしてこのご結
婚を機に、尊師さまは
「高見元男」から「出口
日出磨」と、聖師さまに
より命名された。大本に
とって、尊師さまもまた、
重要な役割を担われる方
だったんじゃ。

モン なるほど。生ま

れる前の不思議なお話
だったり、小さいころか
らお光に助けてもらった
り、やっぱり神さまの大
事なご用があったんだね。

おじい おお、モンちゃ
ん素晴らしいの。まさ
にその通りじゃ。ご結婚
後は、地方へのご巡教や、
その他のご神務に、大変
忙しい日々を過ごされた
んじゃ。

モン そっか。そんな
に忙しくなったのなら、
近所の子供たちとも遊べ
なくなっちゃったね。

おじい ははは。それは
どうか分らんが、やが
て四人のお子さまを授か
られたんじゃが、とても
子煩悩で、よくかわいが
られたそっじゃよ。

モン なんか、想像付く
なあ。優しいお父さん、
おじい じゃあ、尊師さ

まのお話はここまでとし
て、そのお子さまのこと
について話すでしょうか
の。

おっとその前に、尊師
さまのありがたいお示し
を一つ教えておこう。『生
活信条』といって、これ
からモンちゃんが大に
なっても、とてもために
なるお示しじゃから、覚
えておくことよ。

- 一、物事を決して悔やまぬこと
- 一、言いわけを決してなさぬこと
- 一、絶えず真剣な努力をなさぬこと
- 一、頼まれないでも親切のありつたけを尽くされること
- 一、御自身の功名手柄を決して自家広告なさぬこと

- 一、偉そうな振りを決してなさぬこと
- 一、物に執着のないうこと

がんばって勉めよう



教主さまたちについて分からないこと、
疑問に思ったことは、どんどんお手紙で
送ってね。待ってまーす!!

〒621-8686 亀岡市天恩郷
「みろくのお」編集室
「もつとしりたい おおもと」係